2025年度　町田市立南大谷小学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和7年3月31日

学校教育目標　○ よく考えて行動する子ども　○ 思いやりのある子ども　○ 明るく元気な子ども　○ 未来を拓く子ども	学校経営の重点 地域・保護者との連携を深め、地域の人材や施設、専門家等の人材を生かし、体験的学習を一層進めることにより学習意欲を伸ばし、主体的に学習に取り組む
○目指す学校像・・・・・・・・教職員・保護者・地域が一丸となって、将来、地域社会や社会の担い手として活躍できる児童を育てる学校 ○目指す児童・生徒像・・・急速に変化する社会の中で、直面する様々な問題を解決しながら、たくましく、心豊かに生きることができる児童 ○目指す教師像・・・・・・・・それぞれが自己啓発を行い能力を高め続け、結束して公教育の使命を果たしながら、地域社会の信託に応える教師	重点目標の成果と課題 学校を公開する機会を増やすことで、地域や保護者に開かれた学校に近付けることができた。豊富な地域の人材やネットワークをさらに生かして学習内容を充実させ、一つ一つの活動が児童の生活を変えていけるようにしていく。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	特別授業ではなく、教科の授業の中にゲストティーチャーや地域ボランティアを活用する場面を位置付け、積極的に実施する。	4 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満	4.0	A	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	84	A	地域学校協働活動が順調に実施でき、地域と連携した多様な教育活動を行うことができた。 ゲストティーチャーを招いた授業、児童が発表活動をする授業においては、積極的に保護者に公開してきた。多くの来校者があり、「普段の様子がわかる」という感想もいただいた。アンケートでも公開・情報発信の項目において肯定的評価が95%を超えた。一方で、地域連携の内容については、80%台にとどまっており、昨年度と比較しても伸びていない。さらに特色ある教育活動となるように内容の検討・改善を続けていく。	地域連携活動について、年間計画が完成し、見通しをもったカリキュラムとして実施しやすくなった。 活動の内容を高めていくために、活動実施後は速やかに改善点や修正点を検討し、よりよい計画となるように随時フラッシュアップしていく。 学校の普段の様子をさらにタイムリーに伝えていくために、ホームページの内容改善やまめな更新に努めていく。	学校を公開していく姿勢によって保護者や地域からの信頼度が高くなっていくはずである。学校に来てもらう機会が増えることで、子供たちを支援してもらえる場面も増え、学校の応援団になってもらえる。 Tetoru配信で、まめに呼びかけていることもよい。保護者からの要望にあるように早目に連絡していけるようにする。	A
			学習の成果を、ゲストティーチャーや地域ボランティアに対して発表・伝達する場面を設定し、双方向の交流活動を実施し、学習の目標と成果を明確にする。	4 ゲストティーチャーの関わる授業の90%以上で成果の発表・伝達活動を実施 3 ゲストティーチャーの関わる授業の80%以上で成果の発表・伝達活動を実施 2 ゲストティーチャーの関わる授業の70%以上で成果の発表・伝達活動を実施 1 ゲストティーチャーの関わる授業について成果の発表・伝達活動が70%未満	2.3	C	A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%未満	87	A				
		積極的な情報発信と公開を行い、それに対する評価を即時反映しつつ、教育活動を改善していく。	積極的にホームページを更新し、学校の様子を常に発信し続ける。テルルを活用し、学年だより、学級だよりをはじめ、適宜、保護者に必要な情報を正確に発信する。	4 ホームページ週4回以上の更新 3 ホームページ週3回以上の更新 2 ホームページ週2回以上の更新 1 ホームページの更新が週2回未満	4.0	A	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%未満	95	A				
			学校全体の授業公開に加え、発表活動や体験型活動など、学年ごとに授業公開の機会を設ける。地域や保護者の評価を受け、教育活動の改善や児童の学習意欲の喚起につなげる。	4 90%以上のクラスで意識して公開に努めた 3 80%以上のクラスで意識して公開に努めた 2 70%以上のクラスで意識して公開に努めた 1 公開に努めたクラスが70%未満	3.1	B	A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	99	A				
確かな学力の育成	**子どもが主体的に学び、教師が導く改革**を進め、**主体的・対話的で深い学びを実現すること**で、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等**とともに学び続ける力**の育成**を図る。**	校内研究を深め「分かるできる」授業を展開し、児童の学習への興味・関心を高める。	クロームブックや学習ドリルソフトを活用することで、個に応じた指導を徹底し、知識・技能を定着させる。	4 90%以上の授業で意識して指導した 3 80%以上の授業で意識して指導した 2 70%以上の授業で意識して指導した 1 意識して指導した授業が70%未満	2.7	C	A 学校評価アンケート「イ」①⑤「基礎習得・ICT活用」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」①⑤「基礎習得・ICT活用」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①⑤「基礎習得・ICT活用」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」①⑤「基礎習得・ICT活用」肯定的評価 55%未満	90	A	校内研究において、テーマを絞ったことで教科研究は深まったが、授業全般において、構造化が進まなかった面がある。新たな授業スタイルを目指しながらも、方向性を定めきれなかったことが自己評価として表れている。 ICT活用について、成果指標はA評価であるが、取組指標はDである。日々情報を収集し、常に最新の活用方法を探っていく。主体的に学び続けるための授業の工夫が十分にできていなかったことが数値から読み取れる。魅力ある導入、児童の施行に沿った指導計画など、主体的に学ぶための指導の工夫をさらに考える必要がある。	教科研究（算数）の成果を生かした授業の構造化を進める。 授業の中で、児童が学びを選択する場面を整理し、実践を通して南大谷スタイルを確立していく。引き続き町田市授業スタンダードおよび、授業改革シートを活用していく。 授業改革、ICT活用については、OJT研修を充実させることで校内での共通理解を深め、どの学年においても同じ方向性で進められるようにする。全体で振り返る場面を増やすことで、授業改革のヴィジョンを明確にしていく。	教職員や児童が「学び」に注力できるようにするには、まず、その環境を整えることが大切である。学習については、その取り組み姿勢を含めて個人差が大きい。個に応じた授業の充実をさらに図っていく必要がある。授業改革の途上であり、試行錯誤的な面もあるが、これまでの基礎・基本を重視した学びも大切である。「きちんと教える」ということも継続していく。	B
			授業の中に、学習内容の定着を図る時間、形成的評価ができる時間を設け、、常に定着度を評価しつつ、必要に応じて補充的な指導を行う。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 実施した授業が70%未満	2.7	C	A 児童アンケート「勉強がわかる」肯定的評価 80%以上 B 児童アンケート「勉強がわかる」肯定的評価 70%以上 C 児童アンケート「勉強がわかる」肯定的評価 55%以上 D 児童アンケート「勉強がわかる」肯定的評価 55%未満	85	A				
		校内研究・開発を通して、教科教育の専門性を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。	単元全体を見通して学習内容の整理を行い、協働的な学習を進め、主体的に学びに向かう姿勢、すすんで学習に取り組む態度を育てる。	4 全学級が計画的に取り組んだ。 3 90%以上の学級が取り組んだ 2 80%以上の学級が取り組んだ 1 取り組んだ学級が80%未満	2.7	C	A 学校評価アンケート「イ」②③④「学びの姿勢」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」②③④「学びの姿勢」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」②③④「学びの姿勢」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」②③④「学びの姿勢」肯定的評価 55%未満	54	D				
			明確な学習目標を設定し、授業の構造化を進める。児童の表現活動の保証、思考を促す板書や教材提示、生活や次の学習に生かせるまとめなど授業の視点を設け、授業改革を進める。	4 90%の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 構造化された授業の実施が70%未満	2.7	C	A 児童アンケート「勉強が楽しい」肯定的評価 80%以上 A 児童アンケート「勉強が楽しい」肯定的評価 70%以上 A 児童アンケート「勉強が楽しい」肯定的評価 55%以上 A 児童アンケート「勉強が楽しい」肯定的評価 55%未満	81	A				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	自分の生命と他者の生命をともに大切にする心を育み、自他ともに向上していこうとする前向きな姿勢を育てる。	思いやりの心地よさを感じさせることを通して、人権を相互に尊重する姿勢を育て、いじめを絶対に見逃さない生活指導を行う。	4 いじめ防止に関連する授業を月に1回以上指導実施 3 いじめ防止に関連する授業を学期に2回以上指導実施 2 いじめ防止に関連する授業を年に3回以上指導実施 1 いじめ防止に関連する授業を年に2回以上実施	3.5	A	A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」 肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」 肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」 肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」 肯定的評価 55%未満	88	A	いじめ防止に関連する授業を実施するだけではなく、普段の生活指導においても、「いじめは許されない」ことを繰り返し指導している。いじめ防止に関しては、指標の数値も評価も関係なく、常に緊張感と危機感をもち全校を挙げて取り組んでいく。 特別活動において児童が活動を創造したり、選択したりする機会を増やしてきた。活動後の振り返りを行うことで、児童が自己有用感を感じてきていることがわかる。主体的な活動を促進することで、自分と他者も尊重する姿勢を身に付けさせ、認め合い高め合う校内風土を定着させていく。	「いじめは許さない」という強い思いをすべての児童がもてるように、普段の生活だけではなく、学級活動などの特別活動においても意図的に指導していく。いじめ、人に対する思いやりについて深く考え、普段の生活の中で実践できるよう、計画を見直していく。また、全職員の情報交換を密にし、いじめの未然防止、早期発見に努める。 道徳科の授業においては、認め合い高め合える風土づくりを意識するとともに、意見を表明できる関係性をつくれるよう対話的協働的な学びを意識するようにする。	総合的な学習のアイマスク体験で、児童が道徳の授業を想起しながら活動していた。 道徳の授業については、内容の取扱いや授業展開を工夫し、実生活の行動が授業とリンクするようにしていくとよい。生活の中で児童自身がをトラブルを収める方法を身に付けていく必要がある。特別活動においては児童が活躍する場面を計画的に作りだしていてよい。	A
			道徳科の授業では児童の道徳的資質を高める。振り返りの時間を生かして、認め合い、高め合い、助け合う校内風土を定着させていく。	4 90%以上の道徳授業で指導実施 3 80%以上の道徳授業で指導実施 2 70%以上の道徳授業で指導実施 1 振り返りの実施が70%未満	2.8	C	A 児童アンケート「学校が楽しい」肯定的評価 80%以上 B 児童アンケート「学校が楽しい」肯定的評価 70%以上 C 児童アンケート「学校が楽しい」肯定的評価 55%以上 D 児童アンケート「学校が楽しい」肯定的評価 55%未満	88	A				
		教育活動全体を通して、「自ら考え、行動し、振り返る」ことを繰り返し、自己肯定感・有用感を高め、自分も友達も大切にできる態度を養う。	きょうだい班活動、委員会、クラブなど、子どもの主体的な活動を保証し、活動後の振り返りや感想の交流など、それぞれの有用感を高める活動を取り入れる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 振り返りの指導場面が70%未満	2.8	C	A 児童振り返りシートでの満足評価 80%以上 B 児童振り返りシートでの満足評価 70%以上 C 児童振り返りシートでの満足評価 55%以上 D 児童振り返りシートでの満足評価 55%未満	90	A				
			全校でボランティア活動に取り組む銀杏プロジェクトを柱とし、各学年でボランティアの活動を実施し、お互いに容発し合う場面を設ける。	3 90%以上の学級が取り組んだ 2 80%以上の学級が取り組んだ 2 70%以上の学級が取り組んだ 1 取り組んだ学級が70%未満	3.5	A	A 児童アンケート「クラスでは自分の意見が言える」肯定的評価 80%以上 B 児童アンケート「クラスでは自分の意見が言える」肯定的評価 70%以上 C 児童アンケート「クラスでは自分の意見が言える」肯定的評価 55%以上 D 児童アンケート「クラスでは自分の意見が言える」肯定的評価 55%未満	88	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や縄跳び集会など体力向上の習慣を定着させる企画を実施し、運動の日常化を行う。	4 90%以上の体育の授業で実施 3 80%以上の体育の授業で実施 2 70%以上の体育の授業で実施 1 70%未満	2.6	C	A 学校評価アンケート「エ」①「運動習慣」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「運動習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「運動習慣」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「運動習慣」肯定的評価 55%未満	91	A	運動習慣については、成果指標が90%を超えた。長縄集会など、運動習慣に結び付く活動の成果が表れてきている。 危機管理については、問題が起こった時にすぐに教職員で共有し、組織的に対応することができている。児童の安全を保障するには、教職員の対応のみでは成しえない。児童一人一人が危険察知の力を付け、安全に行動する習慣を身に付けさせることが必要である。成果指標はA評価となっているが、さらに指導体制や指導内容を充実させていく必要がある。	体を動かすことが好きな児童が多いという、本校の実態を生かし、体育科年間の内容を意図的に普段の遊びなどに取り入れられるように工夫して指導する。 毎日の給食指導を、自分の健康について意識を高める場面として位置付け、給食室との情報交流などを通して、普段の生活を見直していけるようにする。 児童の安全意識に関して、交通安全や災害安全については意識と知識が高まってきている。日ごろの生活の中に潜む生活安全については、生活指導部を中心に啓発、指導を繰り返し、児童の意識を高めるよう	体を動かして元気に遊ぶ児童が多い。けがをさせない体制作り、指導は不可欠だが、大人が先回りして注意ばかりしないようにしていく。児童に危険を察知する能力、安全な行動について考える姿勢を身に付けさせなければならない。 体育の指導も、児童の運動習慣作りには重要である。指導の工夫を進め、日常の運動習慣につなげていくとよい。	B
			栄養士と連携し、給食のメニューを工夫するとともに、その日の給食について栄養面や食文化について、児童に知らせ食育や健康について考えさせる。	4 90%以上の給食で実施 3 80%以上の給食で実施 2 70%以上の給食で実施 1 食育を意識した給食の実施が70%未満	4.0	A	A 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満	74	B				
		校内の安全な生活環境を整え、自分を守り相手を守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する。	遊びのルール、廊下・階段の歩行などの約束を守る生活習慣を確実に身に付けさせる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.4	B	A 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 55%未満	79	B				
			危機管理情報（健康・問題行動・安全等）を即時学校内で共有し、全校体制で対応するとともに、児童への安全教育を充実させる。	4 90%以上の必要情報に対して実施 3 80%以上の必要情報に対して実施 2 70%以上の必要情報に対して実施 1 必要情報の共有が70%未満	3.5	A	A 学校評価アンケート「ウ」④「児童の安全意識」 肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④「児童の安全意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④「児童の安全意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④「児童の安全意識」肯定的評価 55%未満	87	A				
その他		中学校への見通しと、目標とする自分の姿を明確にもたせる。	中学校教師による交流授業や生徒会・児童会交流などを実施し、一貫教育に向けて連携を深める。	4 小中が連携した教育活動を年に3回以上実施 3 小中が連携した教育活動を年に2回以上実施 2 小中が連携した教育活動を年に1回以上実施 1 小中が連携した教育活動の実施が年に1回未満	3.0	B	A 学校評価アンケート「オ」①「小中連携」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「オ」①「小中連携」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「オ」①「小中連携」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「オ」①「小中連携」肯定的評価 55%未満	27	D	教職員同士の連携、交流を密にしながら、引き続きどのような連携活動が効果的か検討し、実践できるようにすることが課題である。	前年度行った特別活動での交流などを発展させ、どのような連携活動ができるか検討し、進めていく。	中学校と隣接してる地の利を生かしていく。放課後の活動も検討していく。	C

取組指標の評価基準（結果数値からABCD評価へ）

取組指標平均	3．5以上	⇒ 評価A
取組指標平均	3以上3．5未満	⇒ 評価B
取組指標平均	2以上3未満	⇒ 評価C
取組指標平均	2未満	⇒ 評価D

成果指標評価基準

成果指標平均	80%以上⇒評価A
成果指標平均	70%以上⇒評価B
成果指標平均	55%以上⇒評価C
成果指標平均	55%未満⇒評価D

※　学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

学校関係者評価の評価基準例

A⇒	取組・成果ともに十分評価できる
B⇒	取組・成果ともに評価できるが、さらに改善した
C⇒	目標達成には至らないため、次年度の改善が
D⇒	重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※　学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。